

(参考資料) シマフクロウの標識調査について

1. 目的

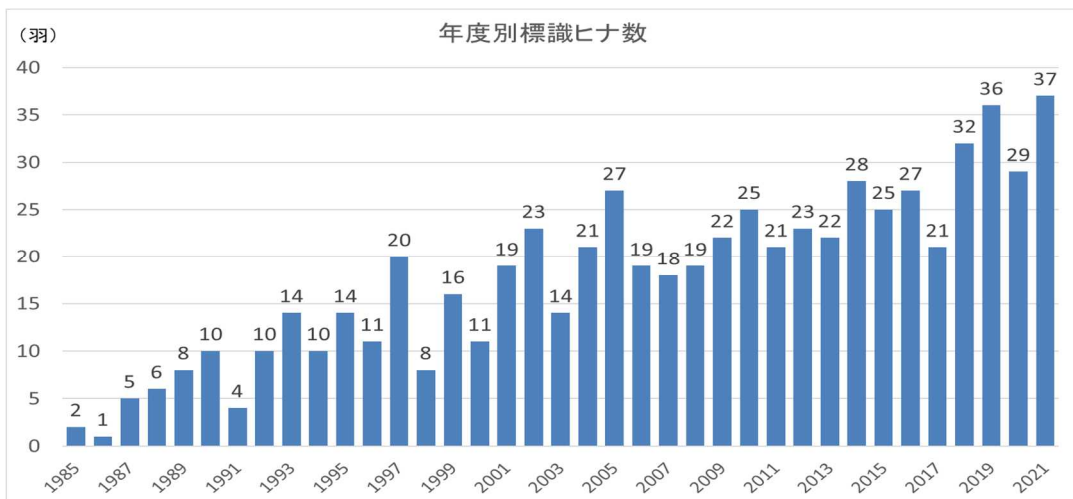
種の保存法に基づく保護増殖事業の一環として、シマフクロウのヒナに標識を装着して個体識別し、性別、来歴等の個体情報の収集及び繁殖状況の把握等を行っています。この調査を行うことで、シマフクロウの繁殖状況、移動分散、寿命、遺伝的多様性など、重要な生態情報を得ることができます。

2. 調査内容

- ・巣立ち前後のヒナを捕獲し、体重・体長等の計測、羽の伸長、採血、外見異常の有無等の獣医学的な診断を行い、個体の健康状態や性別、成長状況を把握します。
- ・診断後、個体識別のための標識（足環）を装着して、捕獲地点に戻します。

3. これまでの実績

- ・1985年に標識調査を開始（2地点で各1羽のヒナに標識を装着）
- ・2021年は28地点で37羽のヒナに標識を装着
- ・2021年までの37年間で、計658羽のヒナに標識を装着
- ・1989年に初めて標識のついた個体を傷病個体として原因究明のため收容し、これまでに106回標識付き個体を收容（1986年以降に收容した全個体（標識調査時のヒナを除く）の約7割に標識が装着）



※数値はあくまで標識したヒナの数を示すものであって、取組の努力量等も影響するため、ヒナの全体数を示すものではありません。

- ・現在、シマフクロウの生息数は北海道の道東を中心に165羽（確認されているつがい数×2＋平成29年度の標識ヒナ数）程度

4. データの活用方法

- ・繁殖状況の経年変化を把握
- ・標識個体の再確認や収容により、個体の移動分散状況、年齢や寿命、血縁関係等进行分析
- ・血液サンプルの DNA 解析により、詳細な血縁関係や遺伝的多様性を評価
- ・個体を識別することで、生態解明のための基礎情報を取得